

日本版DMO形成・確立計画

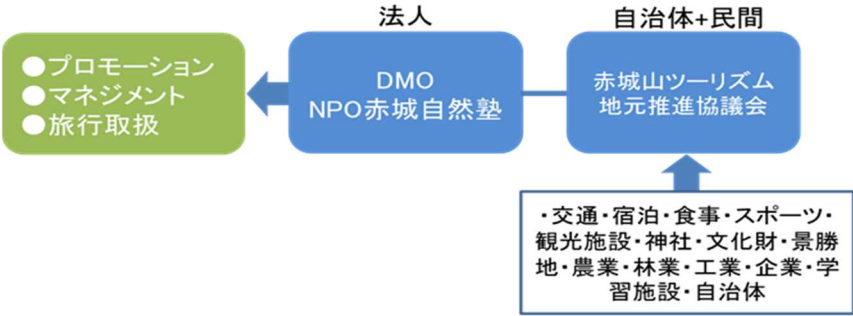
1. 日本版DMOの組織

申請区分	地域連携DMO	
日本版DMO候補法人の名称	NPO法人赤城自然塾	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	群馬県前橋市、桐生市 ※赤城山山頂と赤城山周辺地域	
所在地	群馬県前橋市粕川町中之沢7番地	
設立時期	NPOの設立 2010年12月13日 DMO活動開始 2017年 3月28日 (DMO候補法人認定)	
職員数	6人 (専従3人 兼務3人)	
代表者(トップ人材:法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 天田 清之助「兼務」 (出身組織名) サンデンホールディングス(株)	民間企業で代表取締役副会長として企業経営を永く経験すると共に、群馬県教育委員や様々な社会活動団体の役員等を務め、自治体や地域社会に多大な貢献を果たしている。
各種データの分析・収集等(マーケティング)、事業企画・調整・推進責任者の責任者(専門人材) ※必ず記入すること	(氏名) 渡辺 聡「専従」 (出身組織) サンデンホールディングス株式会社	民間企業で人事・総務関連の職務を通じ、社員意識等の調査・分析と改善に携わる。社外組織との繋がりも広く、活動において連携が期待できる。
プロモーション、旅行商品の造成・販売責任者(専門人材)	(氏名) 渡邊 しのぶ「専従」 (出身組織名) サンデンファシリティ株式会社	前橋観光コンベンション協会で、キャンペーン・イベント等の企画や観光関連プロモーション全般、観光業者との商談の実績を有する。
事業企画・調整・推進(専門人材)	(氏名) 小林 善紀「専従」 (出身組織名) NPOカレッジ	民間企業で貿易関係、自治体で収入役、NPOを育成する団体で地域のNPO育成に多大な貢献をし、現在では赤城山周辺の観光振興のリーダーとして、域内団体を取りまとめる。
事業企画・調整・推進(専門人材)	(氏名) 下田 昭一「兼務」 (出身組織名) 前橋市	効率的な事業展開を図るため、前橋市及び前橋観光コンベンション協会との調整を行い、各事業へのアドバイスを行う。
事業企画・調整・推進(専門人材)	(氏名) 松島 伸安「兼務」 (出身組織名) 前橋市	ヒルクライムなどのサイクルイベントの事業経験を活かし、サイクルツーリズムを中心としたスポーツツーリズムの事業調整・アドバイスを行う。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	群馬県前橋市観光振興課(観光振興・関連団体等のコンセンサスづくり) 群馬県前橋市環境政策課(自然環境資源の調査・整備・環境観光資源発掘) 群馬県桐生市産業経済部観光交流課(観光振興・関連団体のコンセンサスづくり) 群馬県産業経済部観光局(群馬県内における地域広域連携)	

(別添) 様式 1

<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>公益財団法人群馬県観光物産国際協会（群馬県内における地域広域連携） 前橋観光コンベンション協会（プロモーション） 朝日印刷工業株式会社（プロモーション） 株式会社総合PR（プロモーション） 株式会社JTB（旅行業） JR 東日本旅客鉄道株式会社高崎支社（現地交通・旅行業） 東武トップツアーズ株式会社（旅行業） 株式会社近畿日本ツーリスト関東（旅行業） 上毛電気鉄道株式会社（現地交通） わたらせ渓谷鐵道株式会社（現地交通/観光提供） 関越交通株式会社（現地バス・旅行業） 赤城山観光連盟（山頂観光受入れ） AKAGI やる気塾（山頂観光受入れ） NPO 法人まえばし農学舎（グリーンツーリズム・食育） 赤城山自然保護活動推進協議会（山頂環境活動） 群馬県自然保護連盟（自然環境専門分野のガイドンス） カネコ種苗株式会社・ぐんまフラワーパーク（観光受入れ） 赤城自然園（観光受入れ） 赤城温泉観光協同組合（宿泊受入れ） 梨木温泉（宿泊受入れ） オーベルジュ音羽倶楽部（宿泊受入れ） (独) 国立赤城青少年交流の家（体験ツアー/宿泊受入れ） 前橋市赤城少年自然の家（体験ツアー/宿泊受入れ） ぐんま昆虫の森（観光受入れ） サンデンフォレスト（体験ツアー受入れ） サンデン環境みらい財団（学生向け体験ツアー受入れ） 水沼駅温泉センター（観光受入） アーツ前橋（文化施設） 前橋商工会議所（産業） 前橋東部商工会（産業） 富士見商工会（産業） JA前橋市（産業） 桐生商工会議所（産業） 桐生市新里商工会（産業） 桐生市黒保根商工会（産業） 赤城南麓森林組合（産業） 道の駅くろほね・やまびこ（観光受入/農産物直売所） 道の駅赤城の恵（観光受入/日帰り温泉施設/農産物直売所） 道の駅ふじみ（観光受入/日帰り温泉施設/農産物直売所） 道の駅ぐりんふらわー牧場・大胡（観光受入/農産物直売所） 粕川温泉元気ランド（観光受入/日帰り温泉/農産物直売所） 他</p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>（該当する要件） 日本版DMOが行う取組に関する連絡調整を行うため、行政や関係団体から構成される協議会等をDMOとは別に設置すること。 （概要） 前橋市及び桐生市における該当地域の観光事業者約130人で、「赤城山ツーリズム地元推進協議会」を平成29年3月に設立し、DMO事業における協議・合意形成を行っている。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意</p>	<p>連携する地元企業や団体の主催するイベント等に参画し、赤城山ツーリズムの各種PRを行うほか、観光情報紙を定期発行し、前橋市及び桐生市の公</p>

(別添) 様式 1

<p>識啓発・参画促進の取組 法人のこれまでの活動実績</p>	<p>民館や飲食店などに設置している。</p> <p>(活動の概要) NPO 法人赤城自然塾は設立以来、連携(コラボレーション)を基本行動として、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 赤城山の自然環境保全活動(覚満淵のニッコウキスゲを蘇らせる活動、松枯れ対策、水源の森づくりなど) ② 赤城山検定を実施 ③ 都市との交流(エコツーリズムの企画運営による都市部との人材交流の促進など) <p>その他、赤城山周辺の地域振興や自然環境保全等を目指し、赤城山エコツーリズム推進協議会を組織し中心的役割を担う。</p> <p>(定量的な評価)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 赤城山の自然環境保全活動の延べ年別参画人員 ・H25(420人)・H26(650人)・H27(950人)・H28(988人)・H29(972人) ② 赤城山検定の年別資格取得者 ・H25(43名)・H26(96名)・H27(123名)・H28(131名)・H29(141名) ③ NPO 赤城自然塾主催及び共催事業のツアー参加者 ・H25(4件 65人)・H26(6件 123人)・H27(7件 250人)・H28(12件 304人)・H29(13件 273人)
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要) NPO法人赤城自然塾が母体となって該当地域のプロモーション/マネジメント/旅行商品開発を行う。また該当地域の総合的な観光方針や共通の課題解決などを行うために「赤城山ツーリズム地元推進協議会」と合意形成を行う。メンバーには、行政、交通、食事、宿泊、スポーツ、企業、農業、林業、神社仏閣など幅広く官民が密接に連携した運営により赤城山ツーリズムの体制をつくる。</p> <p>(実施体制図)</p>  <pre> graph TD subgraph "法人" DMO["DMO NPO 赤城自然塾"] end subgraph "自治体+民間" Assoc["赤城山ツーリズム 地元推進協議会"] end DMO --> Assoc Assoc --> Stakeholders["交通・宿泊・食事・スポーツ・ 観光施設・神社・文化財・景勝地・ 農業・林業・工業・企業・学 習施設・自治体"] Stakeholders --> Assoc </pre> <p>●プロモーション ●マネジメント ●旅行取扱</p> <p>《広報・顧問団》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 猪谷千春氏(赤城出身の五輪メダリスト・日本障害者スキー連盟会長) ② 山口隆氏(前橋市出身の「赤城山残照」著者・元第一生命副社長) ③ 牛久保雅美氏(群馬県の企業サンデンホールディングスの元会長)

2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

NPO法人赤城自然塾の前進である赤城クリーングリーンエコネットワーク活動の対象エリアが、赤城山周辺の環境団体や民間企業で構成されていた。NPO法人化した後も、山頂エリアの環境資源の保護と活用を促進するために、山麓周辺の関係者と協力しながら行う活動を続けてきた。

そのため、区域設定においては山頂エリアと山麓エリアの一体化した設定が不可欠であると同時に、東京からこのエリアへの玄関口として、東武鉄道赤城駅やJR前橋駅を起点とした動線に沿って対象区域を設定した。

まず、当初では山頂から南麓に広がる前橋市域と東麓の桐生市域の区域からスタートさせ、その後、行政等と調整ができしだい西麓、北麓に拡大していく。

【観光客の実態等】

赤城山は、高度経済成長期には首都圏の観光地として高い知名度があったにも関わらず、その後は低迷・横ばいを続けてきた。

近年においては、自然環境や健康などへの意識の高まりもあり、様々な観光ニーズを持った幅広い年代層が新たな目的を持って訪れる傾向が顕著になっているため、赤城エリア全体でのマーケティングを再検討することで将来の可能性が開けると考えている。

例えば、赤城山覚満淵で実施している「自然観察会」には、老若男女を問わず多くの方が参加し、参加者は毎回100名(過去5回実施)を超えている。一方、前橋市では赤城山の山頂をゴールとする自転車レース「赤城山ヒルクライム大会」を開催しており、赤城山は自転車の聖地として多くの愛好家が訪れるようになっている。また、平成28年9月には、JR前橋駅前に「ジャイアントストア前橋」がオープンした。

こうした状況を踏まえ、赤城山の自然環境を活かしたエコツーリズムの企画や、環境にも優しい自転車で赤城山を一周する赤城山周遊など、新たな視点での取組みが求められている。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

首都圏の観光地としてその価値や魅力を効果的に発信しなければならない。

- 景勝地：尾瀬に匹敵する湿原である覚満淵や鳥居峠からの景観。大沼や小沼の景観。また利平茶屋からの霊峰参詣の古道。レンゲツツジの群生地や白樺林の景観など。
- 生態：赤城姫として愛されるヒメギフチョウの生態。渡りをするアサギマダラの生態。ヒカリゴケなど貴重植物の生態など。

(別添) 様式 1

- スポーツ:日本一小さなスキー場。ワカサギ釣り体験。スノーシュートレッキング。カッターボート体験。ミズナラの巨木でのツリーイング。サイクリングなど。
- 観光施設:赤城山総合案内所やビジターセンター。周辺には、ぐんまフラワーパーク、ぐんま昆虫の森、赤城ふれあいの森、わくわく自販機ミュージアムなど。
- イベント:まえばし赤城山ヒルクライム大会、あかぎ大沼・白樺マラソン大会、赤城山夏まつり、赤城南面千本桜まつり、赤城山雪まつりなど。
- 文化:赤城神社、芥川龍之介等の多くの文豪が赤城山で過ごした歴史文化など。
- 人物:猪谷千春など。
- 神話:赤城と男体山など。
- ローカル鉄道:赤城山と渡良瀬川を望む「わたらせ渓谷鐵道」や赤城山山麓の「上毛電鉄」も交通手段であると同時に魅力ある観光資源とする。

【宿泊施設:域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

- 温泉:秘湯の赤城温泉郷(赤城温泉観光協同組合加盟の5つの旅館に200人程度可能)
梨木温泉(梨木館はせを亭 50人程度可能)
- 山頂:歴史ある旅館(2つの旅館に70人程度可能)
- 宿泊:国立赤城青少年交流の家(400人程度可能)、前橋市赤城少年自然の家(240人程度可能)、オーベルジュ音羽倶楽部(都会の高級ホテルサービス 50人程度可能)
- キャンプ場:赤城山オートキャンプ場(テント区画50程度) おおさる山乃家(40人程度可能)

【利便性:区域までの交通、域内交通】

- ①東京からは、東武線りょうもう号で浅草から赤城駅120分。新幹線と在来線でJR前橋駅まで100分。
 - ②域内交通は、赤城駅から東武鉄道と上毛電気鉄道が接続。JR前橋駅からは赤城山頂への路線バスが接続。
 - ③最寄駅から山頂、あるいは観光施設間の公共交通網が不便であることが最大の課題であり、今後の着地型観光を視野に早急な整備が必要になる。
- 道の駅:赤城南麓エリアには4つの道の駅があり、サイクルツーリズムなどでのネットワーク化の拠点とすることができる。

【外国人観光客への対応】

従来は外国人への対応を統一して行うことは無かったが、DMOの重要な機能として東京オリンピック・パラリンピックを視野に充実させていく必要がある。

また前橋市として五輪前のキャンプ地誘致活動や他国との文化交流事業をきっかけに外国人観光客への増加も見込まれるため、この対応は必須である。DMOとしてはこの対応を3年計画で実施する予定。

- ①資料・プロモーションサイト等の多国語化
- ②ガイドンス要員の育成・現地事業者の研修
- ③施設や交通の表示板類の多国語化

さらに、2018年に実施した調査では、雪と氷の世界が東京から2時間で体験できる冬の赤城山や鄙びた温泉が魅力の赤城温泉郷が外国人視点で高い評価を得ていることから、先ずこうした魅力を知ってもらうプロモーションに力を注いで行く。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトアクセス状況	お客様の関心度や傾向、施策の効果を把握するため。	Googleアナリティクスを活用して実施。
顧客満足度調査	調査結果を受入品質の向上に活か	ツアー参加者等の来訪者にアンケート

(別添) 様式 1

	し、リピーター率の上昇や紹介による顧客増加に繋げていく。	ト調査 (紙ベース) を継続的に実施する。
受入事業者満足度調査	ツアープログラムに対する理解や共感の度合いを把握し、課題を解決する。	赤城山ツーリズム地元推進協議会事業企画において、受入事業者と意見交換を行う。
知名度調査	各種プロモーション活動の成果指標として捉え、次なる戦略を立案する。	ツアー参加者等の来訪者にアンケート調査 (紙ベース) を継続的に実施する。インターネットを活用した調査も実施。

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ・首都圏から 2 時間のアクセス ・自然環境資源 (山、湖、植生、温泉、等) ・果樹 (イチゴ、ブドウ、サクランボ、等) ・豊富なアクティビティ (登山、キャンプ、釣り、スノーシュー、等)	弱み (Weaknesses) ・首都圏から日帰り可能なエリア ・二次交通が脆弱 ・地域間の連携 (広域も含む) が弱い ・自虐的気質 (何もない) ・観光人財の不足
外部環境	機会 (Opportunity) ・外国人観光客の増加 ・2020 年オリンピック、パラリンピック開催 ・前橋赤城スローシティ (住民を主体とした地域づくり) ・2020 年群馬 DC (観光業者との連携強化)	脅威 (Threat) ・地方創生で他地域との競争激化 ・人口減少と少子高齢化 ・企業や団体等が実施する旅行の減少 ・観光関係業者の後継者の不在

(2) ターゲット

○第 1 ターゲット層

赤城山覚満淵で実施している「自然観察会」や黒保根水源の森で実施している「自然保護活動」へ参加を希望する**自然環境への意識の高い層**や、従来から実施している赤城山ヒルクライム大会やあかぎ大沼・白樺マラソン大会へ参加する**国内外のウォーキングやサイクリング愛好者**。

○選定の理由

自然環境や健康などへの意識の高まりに伴う観光ニーズを捉えたエコツーリズム・スポーツツーリズムを実践し、来訪者のニーズを叶えると共に、地元の観光事業者との連携強化と地域活性化に繋げる。

赤城山覚満淵で実施している「自然観察会」は、本年 (平成 30 年) で 6 回目となり、毎年定員 100 名を越える応募があり好評であること、環境保護活動としての「覚満淵のササ刈り」では毎回 150~250 名の方が参加している。また、赤城山ヒルクライム大会においては募集定員 3,700 名を上回る応募があり、インターネット受付 (定員: 先着順 3,100 名) においては、数時間で定員に達する好評ぶりであると共に、日頃から多くのサイクリストが練習などに訪れている。こうしたことから、エコツーリズムプログラムの充実やスポーツツーリズムプログラムの造成を図ることでターゲットの拡大を図るもの。

参考: まえばし赤城山ヒルクライム大会の第 1 回 (平成 23 年度) 申込者数は 2,369 名、第 7 回 (平成 29 年度) 申込者数は 3,788 名となり、1,419 名増加している。


○取組方針

- ・赤城山の山頂エリアでは、白樺牧場散策 (ツツジ編) や冬のスノーシュー体験など四季を通じたエコツーリズムプログラムを充実させる。
- ・域内交通が不便であることを逆手に取り、ローカル鉄道の最寄り駅から、サイクリングやハイキングなどのスポーツツーリズムプログラムを造成する。

(別添) 様式 1

<p>○第2ターゲット層</p> <ul style="list-style-type: none">・子供を含めた国内家族・都心の学校や団体 <p>○選定の理由</p> <p>首都圏で都心から近く、豊富な自然環境と夏でも涼しい気候、国公立の研修施設や指導人材、様々な体験型プログラムが充実していると同時に、温泉や食など観光要素もあり、安全かつ安心な観光が提供できる。</p> <p>「前橋市赤城少年自然の家」及び「(独)国立赤城青少年交流の家」においては、学校や団体関係での宿泊者が多く、昨年の「前橋市赤城少年自然の家」の年間宿泊者数は18,066人、「(独)国立赤城青少年交流の家」は115,926人であったが、季節による繁閑差が大きいことから、閑散期(冬季)の体験プログラム等の造成により、ターゲットの拡大が図れるもの。</p> <p>また昨年、大手旅行会社より「赤城山での自然体験や収穫体験などを楽しむ家族向けのツアー造成」の要望がされ、本年ツアー造成が実現していることから、首都圏や家族向けのツアーニーズがあることが確認できる。</p> <p>○取組方針</p> <ul style="list-style-type: none">・モニターツアーで満足度調査等も行い、体験型ツーリズムを造成し週末の赤城滞在を都会在住者のライフスタイルに組み込めるような地域を目指す。・都心の学校や団体単位での社会活動の一環として組み込んでもらうべく、各コンテンツに磨きをかけると同時に、閑散期の体験プログラムを造成する。
<p>○第3ターゲット層</p> <p>前橋や桐生に支社等を置く首都圏企業</p> <p>○選定の理由</p> <p>首都圏企業(発地)の社員研修の実態と赤城エリア宿泊施設等(受地)の受入可能人数等の調査を実施した結果、首都圏企業では社外(県外)での研修を実施しており赤城エリアがその選択肢になり得ることや、赤城エリアの施設においても積極的に受け入れたいと考えていることが判明したため。</p> <p>○取組方針</p> <p>企業研修の実施時期は4月が最も多いことや人数規模は10~30名での実施が多いこと、赤城エリアの施設は研修を受け入れるポテンシャルを持っていることが確認できている。夏でも涼しい気候や多様な動植物など豊かな自然環境を情報発信し、赤城の魅力・強みを活かしたコンテンツに磨きを掛け、研修プログラムを造成する。</p>

(3) コンセプト

<p>①コンセプト</p> <p>《統一ロゴ設定》</p> <p>《旅の基本コンセプトの設定》</p> <p>週末、東京から2時間の里山環境リゾート</p>  <p>週末、東京から2時間の里山環境リゾート</p> <p>Nature Education Resort</p>
<p>②コンセプトの考え方</p> <p>NPO法人赤城自然塾は、基本コンセプトに『自然と遊び 自然に学ぶ ひとつづくり』を掲げ、赤城山の環境保護や指導者育成を事業の柱として実践してきた。</p> <p>実績のあるNature Educationの経験を基盤として、環境活動そのものを観光資源として多くの皆さまに提供し、チッタスロー(スローライフ)精神のライフスタイルを武器に、Resortとしての「食」「泊」「温泉」等のポスピタリティ産業の集積を図る。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	<p>赤城山ツーリズム地元推進協議会に設置した事業企画会議（月例会議）にて、前橋市及び桐生市、地域の関連事業者とDMO事業について協議を行い、取り組むべきテーマや解決すべき課題を検討し共有して、戦略の決定を行う。</p> <p>また、地域からの情報を元に取材を行い、プロモーション分野のアシストを行うほか、旅行企画・商品造成についての打ち合わせの場を設ける。</p>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<p>赤城山ツーリズム地元推進協議会内に設置した事業企画会議の構成に、環境・宿泊・交通・物産・ガイドなど専門分野メンバーに加入してもらうことで、各分野の品質向上や新たな価値を創出している。</p> <p>また、赤城山へのバス利用来訪者及び現地でのガイドの充実と人材育成を目的とした「赤城山検定」を次世代若手後継者にも拡大し、取得者の増強と共に若返りを推進している。</p> <p>新たな観光資源として地元産業に焦点を当てたコンテンツの充実を図ることや、新たなコンテンツ作りを進めるため、商工会議所や地域商工会などと意見交換を行っている。</p> <p>観光施設、地域でのインバウンド対策調査を行い、該当施設・地区へ調査結果の情報提供や改善点に対するアドバイスを行っている。</p>
一元的な情報発信・プロモーション	<p>DMOの根幹システムとして、赤城山の情報を発信するプロモーションサイトとSNSを利用した効果的なプロモーションシステムを構築し、各観光協会等と連携したプロモーションを行っている。</p> <p>また、地元の多種多様な事業者の情報を集約しデータベース化を行い、旅行会社やメディア等に対して一元的に情報提供できるプラットフォーム「あかぎ旅」の総合窓口を実現するため、情報収集・事業者との意見交換等の取り組みを実施している。</p>

6. KPI（実績・目標）

（1）必須KPI

指標項目	単位	H27 年度	H28 年度 実績	H29 年度 実績	H30 年度	H31 年度	H32 年度
●旅行消費額	億円	—	7.6	13.8	14.5	15.2	15.9
●延べ宿泊者数	万人	—	14.8	13.9	16.3	17.0	17.8
●来訪者満足度	%	—	—	79.3	85.0	90.0	95.0
●リピーター率	%	—	—	47.5	55.0	60.0	65.0

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

前橋市の観光入込客数は群馬県でトップであるにも関わらず、旅行消費額及び延べ宿泊者数については少ないことが課題となっている。

赤城エリアには、多くの観光資源があり、そのポテンシャルは高いことから、赤城山ツーリス

(別添) 様式 1

ムにより、観光資源を有効に活用することで赤城エリアの宿泊者数と旅行消費額を増やすことを目標とした。

来訪者満足度及びリピーター率は、実施するツアーにおいてアンケート調査の中で把握する。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

ググっとぐんま観光キャンペーンの目標値（観光入込客数 5%UP）を参考に目標設定した。

※ググっとぐんま観光キャンペーンについて

群馬県の豊富な観光資源を広く全国に紹介宣伝し、本県の知名度向上・イメージアップを図るとともに、観光客の誘致拡大と受入体制の整備促進に必要な諸事業を官民の協働により実施し、群馬県観光の振興と地域活性化に寄与することを目的とした、県、県内市町村、観光関連事業者や組合等が組織するググっとぐんま観光宣伝推進協議会を中心に、平成23年の群馬デスティネーションキャンペーンから継続して群馬県全体で取り組んでいる大型観光宣伝キャンペーン。

●延べ宿泊者数

ググっとぐんま観光キャンペーンの目標値（観光入込客数 5%UP）を参考に目標設定した。

●来訪者満足度

最終的な目標は 100%であるが、まずは平成 29 年度の実績を基準に上記目標設定と同様の毎年約 5%UP の目標設定とした。

今年度、地元と協力して行っていく事業など実施することで満足度を高められると考える。実施するツアーや観光スポットにおいてアンケート調査の中で把握する。

●リピーター率

まずは平成 29 年度の実績を基準に上記目標設定と同様の毎年 5%UP の目標設定とした。

今年度、地元と協力して行っていく事業など実施することでリピーター率を高められると考える。実施するツアーや観光スポットにおいてアンケート調査の中で把握する。

(2) その他の目標

指標項目	単位	H27 年度 実績	H28 年度 実績	H29 年度 実績	H30 年度	H31 年度	H32 年度
●ワンストップ 取扱件数	件	—	—	22	30	40	50
●ビジターセン ター来場者数	万人	11.4	7.9	5.3	6.5	8.0	8.5
●プロモーションサ イトアクセス数	万件	—	—	3.4	6.0	7.0	8.0

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

DMOとして、一元的に情報提供できるプラットフォーム「あかぎ旅」の総合窓口（ワンストップ窓口）の実現や、赤城山の情報を発信するプロモーションサイトと、SNSを利用した効果的なプロモーションを行うことが重要であることから、以下のKPIとした。

【設定にあたっての考え方】

●ワンストップ取扱件数

現在情報収集を進め事業者との連携によりツアー造成を進めていることから、平成 29 年度取扱件数実績以上の実現が可能であると考え、平成 32 年度に 2 倍以上を目指すことを目標とした。

地元の多種多様な事業者の情報を集約しデータベース化を行い、旅行会社やメディア等に対して一元的に情報提供できるプラットフォーム「あかぎ旅」の総合窓口（ワンストップ窓口）を実現度の指標となる。

●ビジターセンター来場者数

ビジターセンターの利用者数や測定することで、赤城山への登山者の季節ごとの動きを把握し、登山+α（Resort 要素「食」「泊」「温泉」等）の充実などに反映できると考えている。

(別添) 様式 1

平成 28 年度は林間学校施設の閉鎖もあり、来場者数は大きく減少した。また、平成 29 年度は天候等の影響等もありさらに減少したが、先ずは、平成 31 年に平成 28 年度水準の来場者数に回帰させることを目標とした。

●プロモーションサイトアクセス数

現在、利用者がさらに必要な情報を入手でき、且つ魅力的な見せ方ができるようHPの修正をしていることや、立ち上げから 2 年目となることより、平成 29 年度アクセス数実績の概ね 2 倍を目指すことを目標とした。

アクセス状況から、来訪者の関心度の把握や各種施策の効果検証等にも活用していく。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳	
平成 29 年度	23,960,000 (円)	【都道府県からの補助金】	0
		【市町村からの補助金】	18,960,000
		【ガイダンスセンター指定管理収入】	0
		【会費収入】	0
		【観光・イベント・事業収入】	3,000,000
		【民間企業等からの賛助金】	2,000,000
平成 30 年度	23,960,000 (円)	【都道府県からの補助金】	0
		【市町村からの補助金】	18,460,000
		【ガイダンスセンター指定管理収入】	0
		【会費収入】	0
		【観光・イベント・事業収入】	3,500,000
		【民間企業等からの寄付】	2,000,000
平成 31 年度	25,460,000 (円)	【都道府県からの補助金】	0
		【市町村からの補助金】	18,460,000
		【ガイダンスセンター指定管理収入】	0
		【会費収入】	0
		【観光・イベント・事業収入】	5,000,000
		【民間企業等からの寄付】	

(別添) 様式 1

		2,000,000
平成 32 年度	26,710,000 (円)	【都道府県からの補助金】 0 【市町村からの補助金】 19,710,000 【ガイダンスセンター指定管理収入】 0 【会費収入】 0 【観光・イベント・事業収入】 5,000,000 【民間企業等からの寄付】 2,000,000

(2) 支出

年度	総支出	内訳
平成 29 年度	23,960,000 (円)	【一般管理費】 11,360,000 【国内外プロモーション】 5,000,000 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 1,600,000 【観光・イベントの開催事業費】 6,000,000
平成 30 年度	23,960,000 (円)	【一般管理費】 8,860,000 【国内外プロモーション】 7,000,000 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 1,100,000 【観光・イベントの開催事業費】 7,000,000
平成 31 年度	25,460,000 (円)	【一般管理費】 8,360,000 【国内外プロモーション】 8,000,000 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 1,100,000 【観光・イベントの開催事業費】 8,000,000
平成 32 年度	26,710,000 (円)	【一般管理費】 8,710,000 【国内外プロモーション】 8,900,000 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 1,100,000 【観光・イベントの開催事業費】 8,000,000

(別添) 様式 1

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ① 赤城山とその周辺の様々な地域資源活かした観光商品の開発と販売
 - ・赤城山の自然観察、ガイドなどを活かしたエコツーリズム販売
 - ・農(食)体験、古民家での宿泊などを活かしたグリーンツーリズム販売
 - ・サイクルツーリズムやロングトレイルなどを活かしたスポーツツーリズム販売
 - ② 地域情報を発信するプロモーションサイトや印刷物での広告収入の確保
 - ③ 赤城山振興策について地方公共団体から業務委託
 - ④ 赤城自然塾加盟企業団体へ特別賛助協力金の協力依頼
- また、行政からの支援を継続的に受けられるよう、赤城山ツーリズム事業の充実を図ると共に、前橋市や桐生市の各種業務委託等についても受けられるよう働きかけている。

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

群馬県前橋市並びに桐生市は、赤城山エコツーリズム活動の母体である「NPO法人赤城自然塾」を、前橋市及び桐生市の「地域連携DMO」として推薦致します。

この対象エリアは、前橋市の赤城山を中心として5市1村にまたがっていますが、初めに前橋市と桐生市が中心になって支援することにより、周辺市町が盛り上がる効果を期待するものです。

これにより、広域圏での地域経済振興に寄与するものと考えます。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	渡辺 聡
担当部署名(役職)	NPO法人赤城自然塾 事務局長
所在地 執務場所	群馬県前橋市粕川町中之沢7番地 サンデンフォレスト内 群馬県前橋市大胡町堀越町1115 前橋市大胡支所内
電話番号(直通)	携帯 080-5378-9301(事務所 027-212-2611)
FAX番号	027-212-2691
E-mail	satoshi.watanabe.ak@g-sanden.com

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	群馬県前橋市
担当者氏名	小淵博文
担当部署名(役職)	文化スポーツ観光部観光振興課 課長補佐
所在地	群馬県前橋市本町2丁目12番1号 前橋プラザ 元気21
電話番号(直通)	027-210-2189
FAX番号	027-237-0770
E-mail	kanko@city.maebashi.gunma.jp

都道府県・市町村名	群馬県桐生市
担当者氏名	深澤 明男
担当部署名(役職)	産業経済部観光交流課 課長補佐
所在地	群馬県桐生市織姫町1番1号
電話番号(直通)	0277-46-1111
FAX番号	0277-40-1283
E-mail	e33312-akio@city.kiryu.lg.jp

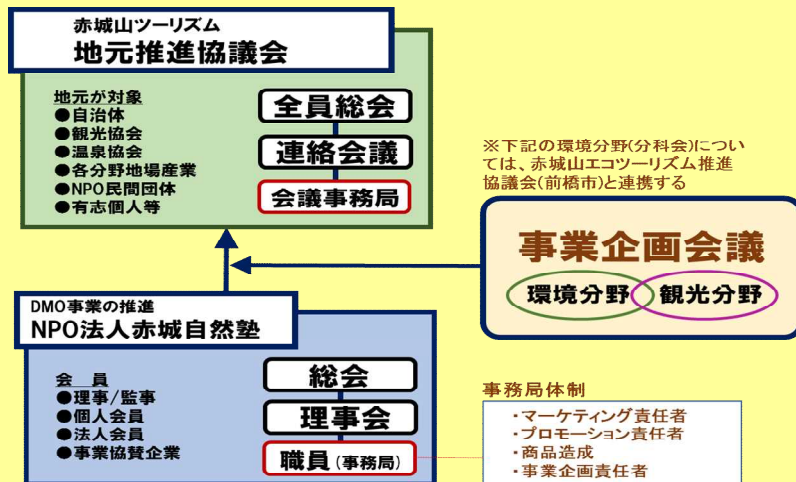
週末、東京から2時間の里山環境リゾート Nature Education Resort

法人名：NPO法人赤城自然塾

登録区分名：地域連携DMO

【区域】群馬県：前橋市、桐生市
※赤城山山頂と赤城山周辺地域

【設立時期】2010年12月13日
【代表者】天田 清之助【マーケティング責任者】渡辺 聡
【職員数】6名(専従3名 兼務3名)
【連携する主な事業者】前橋観光コンベンション協会、前橋観光コンベンション協会宮城・粕川・大胡・富士見支部、JTB、東武トップツアーズ、近畿日本ツーリスト、JR東日本旅客鉄道株式会社、上毛電気鉄道株式会社、わたらせ渓谷鐵道株式会社、関越交通株式会社、赤城山観光連盟、AKAGIやる気塾、NPO法人まえばし農学舎、赤城山自然保護活動推進協議会、群馬県自然保護連盟、ぐんまフラワーパーク、赤城自然園、赤城温泉観光協同組合、梨木温泉、オーベルジュ音羽倶楽部
(独)国立赤城青少年交流の家、前橋市赤城少年自然の家、ぐんま昆虫の森、サンデンフォレスト、アーツ前橋、赤城南麓森林組合 他(順不同)



表：KPI(実績・目標)

指標項目	単位	H27年度	H28年度実績	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度
●旅行消費額	億円		7.6	13.8	14.5	15.2	15.9
●延宿泊者数	万人		14.8	13.9	16.3	17.0	17.8
●満足度率	%		—	79.3	85.0	90.0	95.0
●リピーター率	%		—	47.5	55.0	60.0	65.0

観光・商業施設に関する取組

赤城山山頂には、赤城山総合案内所やビジターセンター、日本一小さなスキー場、秘湯の赤城温泉郷や梨木温泉がある。

赤城山周辺には、ぐんまフラワーパーク、ぐんま昆虫の森、赤城ふれあいの森、わくわく自販機ミュージアムなどがある。

<今後の取組>

昨年度より実施している赤城温泉郷宿泊者向け新プラン「赤城南麓のホタルウォッチングツアー」の拡充や、わくわく自販機ミュージアム及び地元企業の社員食堂での昼食をツアーコースに組み入れた旅行商品をつア一会社と造成するなど、新たな価値を産み出す地域資源を発掘し地域活性化に結びつける。

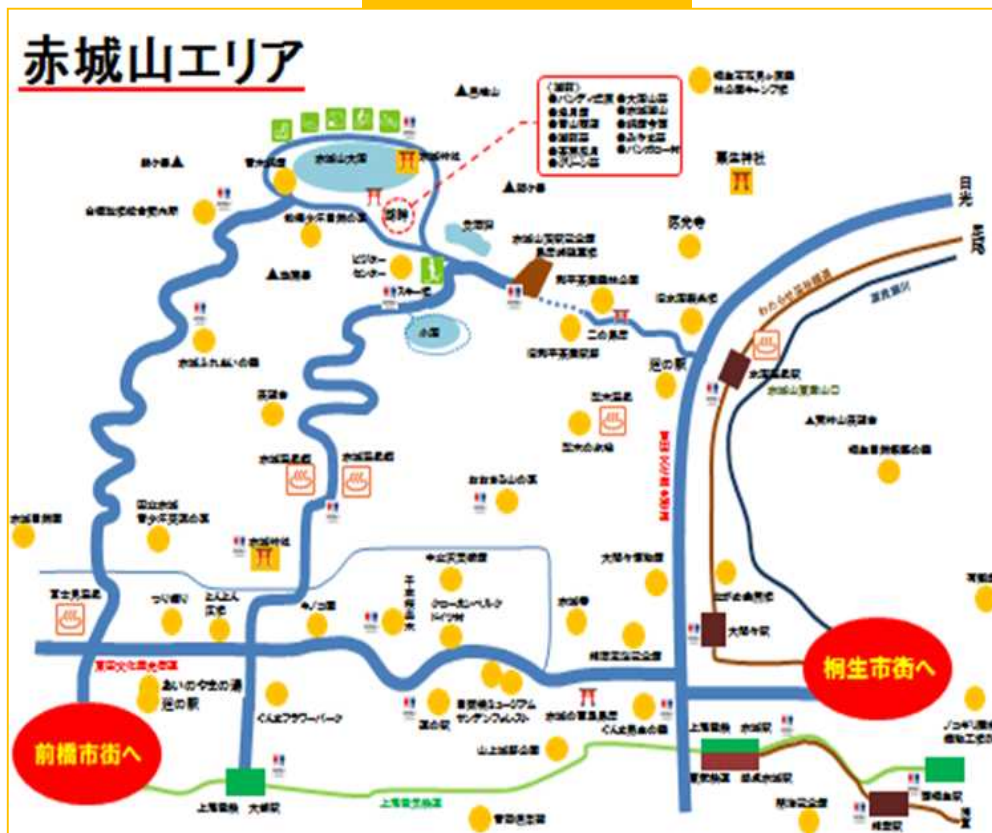
イベント・スポーツに関する取組

イベント：まえばし赤城山ヒルクライム大会、あかぎ大沼・白樺マラソン大会、赤城山夏まつり、赤城南面千本桜まつり、赤城山雪まつりなど開催されている。スポーツ：ワカサギ釣り体験、スノーシュートレッキング、カッターボート体験、ミズナラの巨木でのツリーイング、サイクリングなど。

<今後の取組>

本年度4月にサイクルトレイン・上毛電気鉄道も活用したサイクルツアーを実施した。今後もスポーツサイクルを用いたスポーツツーリズムとヘルスツーリズムを合わせた観光振興事業を検討中。赤城南麓エリアの交通の便の悪さの解消も図ることができる。

対象エリアマップ



自然・文化に関する取組

赤城山は季節によって表情を大きく変え、春の桜、初夏の様々な種類のつつじや盛夏の避暑、秋の紅葉、冬の氷湖など、季節ごとに違う魅力がある。山頂部は、一年を通し気温は北海道の旭川市とほぼ同じとされている。外輪山に囲まれたカルデラには、火口原湖の大沼、長七郎山を外輪山とした小沼火口湖、大沼の一部が湿原化した覚満淵の水辺があり、四季折々の自然が楽しむことができるエリアである。

景勝地：尾瀬に匹敵する湿原である覚満淵や鳥居峠からの景観。大沼や小沼の景観。また利平茶屋からの霊峰参詣の古道。レンゲツツジの群生地や白樺林の景観など。生態：赤城姫として愛されるヒメギフチョウの生態。渡りをするアサギマダラの生態。ヒカリゴケなど貴重植物の生態など。文化：赤城神社など。

<取組>

H20：赤城山の自然保護活動推進協議会を発足し赤城山覚満淵を中心とした環境保全活動を実施(10年目)、H22：赤城山環境ガイドボランティア養成講座を実施(8年目)、H23：地元高校と連携し「水源の森づくり」事業を実施(7年目)、H24：赤城山環境ガイドボランティアによる定期バスの車内におけるガイド実践を実施(6年目)、H25年：赤城山検定を実施(5年目)、H27：赤城山周辺の地域振興や自然環境保全等を目指し、赤城山エコツーリズム推進協議会を組織し中心的役割を担う。

<今後の取組>

赤城山山頂エリアを対象にした赤城山エコツーリズム推進全体構想を平成30年2月に環境省に申請し、間もなく認定エコツーリズム推進協議会となる見込みである。今後、赤城山エコツーリズム推進全体構想に基いたエコツーリズムプログラムを実施していく。